

10月30日(金) 15:15-17:30

セッションチェアマン： 戸所 義博(イーセップ(株))

◆ 中国・インド 半導体産業の現在地



株式会社産業タイムズ社
代表取締役副社長
電子デバイス産業新聞 特別編集委員
津村 明宏

[講演要旨]

世界各国が半導体産業の振興を図るなか、インドや東南アジア諸国も同様の取り組みを強化し、半導体産業のさらなる集積や強化を図っている。本セッションでは、中国・インドにおける半導体産業の現状と、東南アジア各国における振興の取り組みを簡潔に紹介する

[講演者プロフィール]

1995年3月に関西大学経済学部卒。1999年3月(株)産業タイムズ社に入社。電子デバイス業界の専門紙である電子デバイス産業新聞(旧・半導体産業新聞)の記者として、2007年より副編集長、2009年12月より編集長。2021年7月より副社長兼特別編集委員。

◆ 国家総力戦で臨む韓国半導体育成戦略に迫る



株式会社産業タイムズ社
ソウル支局長
嚴 在漢

[講演要旨]

韓国政府は、3000億円規模の予算を投入し、「ベラ・ルービン」をはじめとする最新の高性能GPUを1万枚確保する計画だ。この事業は、AIインフラの「AI高速道路」構築の一環として推進している。2026年に選定されるクラウドサービス事業者(CSP)は、次世代高性能GPUである「ベラ・ルービン」を2016個、「B300」を7688個など、計9704個をデータセンターに構築し、サービスを開始することになる。こうした状況の中、サムスン、

SK、現代自動車、LG の韓国 4 大グループがエヌビディアと連携し、AI を活用した「製造業の超激戦」における競争力の確保に乗り出している。この AI に不可欠なコア部品である HBM) をめぐっては、マイクロン・CXMT・サムスン・SK という米・中・韓による市場争奪戦が激しさを増している。

[講演者プロフィール]

1988 年韓国外語大学中国語科卒、93 年東京国際大学大学院国際関係学科修士号取得、アジア経済研究所を経て 95 年産業タイムズ社入局、97～2006 年韓国・中国特派員、06 年～ソウル特派員、12 年～ソウル支局長、現職。著書「韓国先端産業最前線」(2021 年発刊)、「韓国財閥の功罪」(2024 年 12 月発刊)など。

※本講演に興味を持たれた方は、こちらの講演もご覧になっています。

【E-1】大学セッション(無料)ARIM 半導体分析最前線

【E-2】航空・宇宙技術の最前線